



晩 秋

## 第 173 回 例 会 1962.11.6 (火) 雨後晴 白鬚社会員

菊地順雄氏絵

例 会 場 鶴岡市一日市町 ひ さ ご や (707番)

事 務 所 鶴岡市馬場町十日町口 商工会議所内 (1563番)

## ○出席報告

本日の出席者	出席数 36名	欠席者	今間君、広瀬君、鷺田君、 谷口君、高橋君、佐藤(仁)君
出席率	81.82%		板垣君、大野君
前回の出席率	81.82%	メ	鈴木君 (酒田R.C)
修正出席数	38名	イ	クア 吉村君 (仙台R.C)
修正出席率	86.36%	ツ	張 君 (酒田R.C)

## ○司 会 佐 藤 会 長

## ○ソ ン グ 奉仕の理想 リーダー 安藤君

## ○ピジター 菅野和助君 (酒田R.C)

## 経営陣営の軍師の宴会哲学 安藤 君

総評と四つに組んで少しもヒケをとらない盲目の闘将前田一氏が、場末の花街を片端からわたり歩いていると云つたら思わずヒザを乗り出すだろう。が、本当の話なのである。しかもエロ漫談と清元が名物だという氏が「秘密をしやべらない、議論をしない、人物批評をしない……」という珍妙なる「宴会哲学三ヶ条」をうちだした。氏がいう宴会魂とはどんなものなのだろうか。

2~3年前の家庭調査で、家庭内のイザコザの原因については、セックスに続いて宴会が第2位を占める、と云う結果があらわれた。世の奥さん達を悩ませている「宴会」という二文字。しかし仕事となれば、当事者である男性たちも決して楽であるはずはない。この点について、三日にあげず場末の花街に姿をあらわし、宴会通として自他ともにゆるす前田一さんは、ズバリとこう力説する。「たしかに宴会は仕事の延長です。だから宴会はむずかしい。昼間の仕事の5倍も10倍も神経をつか

う。だがね、近頃の宴会には、いささか問題があるんですよ……」と――。

「宴会には、せつかく高い費用をかけて何の役にもたない宴会がかなりあるんです……」ということになる。ところで、前田さんの主張する「宴会哲学」というのはこうなのだ。戦前の実業家たちには、宴会を会社内の仕事と同様に、いやそれ以上に、真剣な態度でのぞむ気風があつた。

いわゆる「宴会道」というものを知つていた。つまり人を招待する時にはどうすればよいか。相手の人を満足させることを第一に考え、研究した。

接待するお客さんの好きな料亭、好きなお酒、またどんな食べものが口に合うか、そして芸者は誰と誰を呼ぶべきか、さらに同席の顔ぶれと人数をどの程度にしたらよいか、余興は何がよいか、その上、坐る場所はどうかまでを、ことこまかに研究し配慮したものだ。

そのためには、宴会をする数日前から、相手の顔ぶれを探つて、ひそかに好みとか性格を調べ上げ、それによつて料亭に注文をくださったものだ。これだけの気の配りようがあつてこそ、使つた金が本当に生きてくるというものだ。

要するに、戦後の実業家諸氏の中には、これだけの準備をする者が少い、というのである。

宴会ほどむずかしいものはない。せつかく、何十万という費用をかけても、「つまらんじやないか……」。お客側が少しでもこういう気持を持つたら前後、その宴会は何の役にもたなかつたばかりか、かえつて仕事の上マイナスを招くおそれさえあるのだ。

かけた費用と時間は、全くの無駄になつてしまう。が

反対に、コストは安くても宴会のやり方いかんでは、相手を十分に楽しませ、商談を有利にすすめられることさえあり得るのである。一口に言えば「魂の入った宴会をやれ」ということが前田さんの「宴会哲学」の根本理念なのである。

お酒が入ると、多くの人はガラリ人間が変貌する。落語のまくらにあるような、ニワトリ上戸ほどの変り方はないにしても普段ムツツリしている男が、急にペラペラやりだしたり、むやみに人に抱きついてペロペロなめまわすものさえある。

こんなのはまだご愛嬌ですまされる。始末の悪いのは道理の通らない議論をふきかけてくるケースだ。中には喧嘩をやりたいがる男もいる。

「そんな時は、エロ漫談か清元をうなつておつちやかしてしまうのが、いちばんききめのある手段ですな、少くともいままでの経験では……」前田さんはこう主張する。そもそも、こう考えた動機というのは、明治の名宰相といわれた原敬の言葉に深く感銘してからだそうだ。原敬という人は、一口でも酒を飲んだら最後、ゼツタイに政治の話をしなかつたという。彼の言葉をかりるならば、酒を飲んでから政治とか仕事の話をする、必ず損をするというのである。

彼のいう損の一つは「いつてはならないことをついしやべつてしまう」ということ。

もう一つの損は「たとえ議論に勝つても負けても酒がまずくなり、あと味が悪い……」ということ。つまり、政治や仕事についてのむずかしい話をしていると、酒のいきおひも手伝って議論になってしまう場合が多い。宴会で議論をたたかわし、その結果勝つたとしても、あんまりあと味のよいものではない。

「助けえおやじといわれてもいいんですよ。仕事の秘密をしやべつたり、議論をして気まずい思いをするよりか、ずつとこの方がいいと思つているんです。これに、わたしはもう一つの損をつけ加えてみたんです……」

前田さんのいうもう一つの損とは「酒を飲んだ時は人物評をやらない」ということ。酔つている時は、人物評は必ず悪口に移行してゆくものである。秘密をしやべらない、議論をしない、人物評をしない、——前田さんはこの三つを「宴会哲学の三ヶ条」と名づけた。

(週間文春 9年24日)

### ○連絡事項

○インターシテイ・フォーラムの開催について、56名の出席の申し込みがありましたが、だいたい60名位になるだろうと思う。当クラブの会員は全員参加下さればさうとうの多数になるようです。

○モデレーターは次の4名の方に決定致しました。

国際奉仕 立川与一君(酒田R.C.)  
社会奉仕 桜井喜一君(上山R.C.)  
クラブ奉仕 佐々木仁一君(山形西R.C.)  
職業奉仕 高橋与市君(米沢R.C.)

○会員拡大の件について、別紙5名の方で不適當と思われる方は、その理由を具して、幹事まで至急御提出願います。提出しない方は承諾を得たものと見做します。

○会員鈴木君が此の度財団法人日本衛生食品協会個人表彰されました。

○当クラブの恩人者安斎先生が此の度茂吉文化賞を授けられ、クラブより祝電を送つた。それに対し、御礼状が参りました。

○会員田中君のお子さんより Ne. Bruhswick. Dr. Kler さんに色々とお世話になつており、Kler さんが来鶴された時の写真等を見て深く当事の事を思い出されているようです。こうして私が、Kler さんに御世話になる事の出来るのも、皆様ロータリーの方々の御力と思つております。今は卒業論文に専念しております。クラブ宛便りがありました。

### ○幹事報告

○会報到着 東京、大曲各R.C

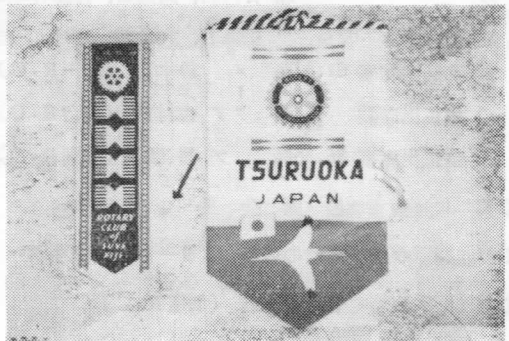
○例会場変更 花輪R.C

11月10日 於 花輪町沢口魚荷捌所  
11月17日を11月16日に繰上

○インターシテイフォーラムに欠席の方は次回例会まで幹事に御連絡下さい。

○インターシテイフォーラム提出議案を次回例会まで提出下さい。

○米沢クラブ河村秀一郎君よりリンゴ一箱頂戴致しました。



南太平洋上のFIJI島のSUVA. RCのパナーです。小花君が、10月22日小田原のMRA ASIACENTERで開かれた、MRA 世界会議に出席した時に全クラブのDR. A. ALI ASGARと交換したもので、樹皮のTAPAで作られてゐて、煤煙等のフィジー島の民俗的な材料を用いて模様が書かれてゐます。

○11月誕生者 三浦君、鈴木君

奥様誕生 早坂左枝子さん

○10月100%出席者

三浦君、金井(国)君、安藤君、阿部君、長谷川君、武田君、広瀬君、早坂君、飯白君、鷲田君、岩網君、海東君、小花君、三井君、斎藤(栄)君、荘司君、鈴木君、佐藤(昇)君、佐藤(仁)君、手塚君、田中君、津田君、石井君、張君、嶺岸君、佐藤(伊)君、中台君、三井(賢)君

### ○ニコニコ箱

鈴木君表彰されて、金井(国)君早退、福島君早退

○本日の献立 刺身 平目、わらさ 焼物、鮭  
味噌汁 豚肉、ねぎ、豆腐粕